JULY 2025 ISSUE

NEWSLETTER

APU Outreach & Research Office

科研費特集号

【7月号】科研費シーズンになりました！

7月になり、科研費の公募がスタートしました。アウトリーチ・リサーチ・オフィスの夏はまさに科研費シーズン！今月のニュースレターは、科研費特集号として発行します♪

科学研究費助成事業（以下、科研費）は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする競争的研究費です。ピアレビューにより、豊かな社会発展の基礎となる独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです（日本学術振興会HPより）。

科研費は日本における最大規模の競争的研究費制度であり、研究者の重要な研究費であるとともに、大学の研究力を表す指標にもなっています。

学長　米山　裕

2030年にAPUが目指す将来像として策定したAPU2030ビジョンでは、「世界を変える人材の育成と世界に誇れるグローバル・ラーニング・コミュニティの構築」を掲げました。また、APU2030ビジョンを実現するためのチャレンジ・デザインでは、「社会・地域に貢献する国際通用性のある研究の推進」をアクションプランとして定めています。

昨年度末にはAPUの研究高度化計画を策定し、まさに研究活動を政策課題として具体的に取り上げたと言えます。APUの研究力を高めることにより、独創性の高い知見や学術的成果が創出され、国際社会や地域社会、産業界などへ社会的インパクトを生み出していくーー学長としては、そのようなイメージを持っています。この研究に取り組むのは、他でもない先生方です。先生方の日々の教育・研究活動への献身、行政へのご協力には心より感謝しています。先生方がさらに研究活動に注力できるよう、大学として支援を強化していきたい、そこに学長としてリーダーシップを発揮する所存です。

私自身も、戦前から戦後にかけての環太平洋地域における在外日本人の移動と職業・生活などについて、歴史学、地域研究、地理学、社会学、人類学の方法論を用いて分析し、在外日本人の経験の全体像の提示を試みることを目標に、基盤研究Aを2度取得し、取り組みました。このような大きなプロジェクトは、先輩研究者のメンターシップや共同研究者の皆さんの協力があって成し得たことです。その時の苦労や達成感・充実感は、学長となった今でも忘れることの無い、研究者としての誇らしい経験だったと感じています。ぜひ、APUの先生方にも、研究者人生をかけて挑戦してほしい！同じ研究者としてそう願っています。

副学長　篠田　博之（教学・研究担当）

私自身は立命館大学（RU）情報理工学部の教員でもあり、大学院生14名と学部生23名からなる研究室を運営する現役の研究者です。心理物理学、視覚科学、色彩工学、法心理学などが専門で、RUでは関連する専門科目と「多変量解析」を担当しています。

これまでAPUのみなさんのユニークな研究の推進と積極的な成果発信により、研究領域におけるAPUの認知度も向上しています。APU研究高度化計画では、他では解決できないような研究課題に多様な研究者の体制で取り組み、他大学の追随を許さない極みを目指します。簡単に言えば、「APUならこれ」「これはAPUしか解決できない」と言われるような状態です。

科研費申請シーズンが到来しました。「採択の常連」から「距離を置いている」まで、科研費との付き合い方はさまざまかと思います。しかし、「なぜ科研費？」と考えたこともないほど、（日本の）大学に在籍する研究者にとっては当たり前の存在であることも事実です。理工系では研究費獲得は死活問題であり、人文社系でもジャーナル投稿、学会発表など研究アウトプット、当然ながら資料、機器、調査、謝金など研究推進自体にもそれなりの費用が必要です。実際に研究活動をしていれば個人研究費では到底足りないはず。産学連携による研究費も重要な資金源ですが、先方の要望に合わせるため研究内容の自由度は下がります。その点、科研費では研究者の自由な発想に基づく広範な研究課題に対して研究費が提供されますので、日本では科研費が大学の研究力のバロメータとして機能していることもうなずけます。

APUは引き続き、科研費の申請率と採択率の向上を目指します。「全員申請！」と言いたいところですが、申請・採択にはさまざまなハードルがあります。研究課題・計画の策定、申請分野の選択（私の場合はこの問題が大きい）、申請書作成の作法など、すべてアウトリーチ・リサーチ・オフィスが相談に乗ります。科研費には申請しない予定の方も、研究に関わることであれば何でもオフィスへご相談ください。多様な研究のかたちを支援するAPUでありたいと思います。

科研費についてより詳しく知りたい方はこちら

科研費の詳細を知りたい方は、日本学術振興会（JSPS）のホームページをご覧ください。
科学研究費助成事業（科研費）｜日本学術振興会

APU教員のこれまでの科研費採択実績は、こちらのリンクからご確認頂けます。
科学研究費助成事業（科研費） 採択課題 - 立命館アジア太平洋大学
過去の採択課題 - 立命館アジア太平洋大学

科研費トーク＆カフェが行われました

7/2（水）、科研費採択経験者による科研費トークが行われました。これは、2026年度の科研費への申請を計画または検討している教員に、「科研費とは何か」「採択される申請書作成のコツは」といった内容を、科研費採択経験者の先生方にお話いただくものです。

MACK Lindsay 教授
言語教育センター

【講演名：Integration of Machine Translation Technology】

まず、CLEのMACK Lindsay先生がお話されました。MACK先生は、「若手研究」種目に2023年度に採択されました。ご自身の経験から、最初の応募で不採択になった翌年、どのようなタイムラインで準備をし、「学術的問い」と「研究の目的」の設定も含めどのように研究計画調書を書き直したかを説明されました。その後、研究の進め方や達成できたことについて具体例を挙げ、最後にこれから申請する先生方へ向けて「Tips」を紹介して締めくくりました。

下村 研一 教授
アジア太平洋学部

【講演名：科研費申請書の評価を ワンランク上げる】

次に、APSの下村研一先生が、これまでの「基盤研究A・B・C」各種目への採択経験と、審査員経験を生かし、「科研費申請書の評価をワンランク上げる」という観点からお話しくださいました。「研究」を「料理」、「申請書」を「写真入りのメニュー」に例え、申請書の見栄えをよくするためには、例えば「一問一答形式で問題文に過不足なく答える」「業界用語は一般用語に書き換える」など、具体的で有用なヒントを挙げられました。最後は「Good Luck！」と激励のお言葉を添えられました。

NOTICE

科研費トーク全編はこちらから視聴いただけます。（日英2言語）
過去の科研費トークもぜひご覧ください！

トーク終了後は、コーヒーを飲みながら科研費申請に関する相談を受け付ける科研費カフェが開かれました。井口先生、蓮田先生、SUN先生が相談員となり、相談者はそれぞれの疑問点を質問したり、アドバイスを受けたりして開催時間を有効活用していました。

リサーチオフィスでは、科研費に申請したい、関心があるという先生方のご相談を受け付けています。過去に科研費に採択経験のある先生方のご協力により、実際に採択された申請書の写しをアウトリーチ・リサーチ・オフィス内で閲覧できます。ご希望の方はオフィスにご連絡ください。

科研費申請スケジュール

2026年度に向けての申請スケジュールは以下のとおりです。

7/14（月）JSPS公募開始

7/23（水）14:00～15：30 学内公募説明会

言語：日・英
方法：Zoom https://weareapu.zoom.us/j/97222667011
申込：2026年度科研費公募説明会 FY2026 Grants-in-Aid Application Guidance Session（当日の申込みでもご参加いただけます）

8/6 （水）正午　学内査読希望者の研究計画調書提出一次締切

学内教員査読を希望される方は、この日までに科研費電子申請システムからオンラインで申請書をご提出ください。申請書の提出後は、メールにて査読希望の旨をお知らせください。

8/20（水）正午　オフィスチェック希望者の研究計画調書提出一次締切

オフィスによる内容チェックを希望される方は、この日までに科研費電子申請システムからオンラインで申請書をご提出ください。この締切日以降に提出された研究計画書のチェックはできませんのでご了承ください。

9/5 （金）正午　学内最終締切

学内教員査読・オフィスチェックを希望されない場合は、この日までに科研費電子申請システムからオンラインで申請書をご提出ください。

9/17（水）JSPS締切

発行：立命館アジア太平洋大学 アウトリーチ・リサーチ・オフィス（研究広報）
ropa@apu.ac.jp